

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3650180015		
法人名	社会福祉法人 愛心会		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地	徳島県徳島市新西浜町2丁目3-33		
自己評価作成日	平成22年9月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3650180015&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所周辺に大型スーパーがあるが、比較的静かな環境である。併設事業所と情報交換を密にし、連携を図っている。夜間の災害時や緊急時に早急な対応ができるよう協力体制を築いている。利用者一人ひとりの個別性を理解し、本人本位のケアが実現できるよう全職員がチームとして取り組んでいる。利用者の状況を把握し、日ごろのケアに反映できるよう話し合いの場を設け、介護計画の作成や見直しを行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は2階にあり、2つのユニットがL字型に位置している。ウッドデッキが広く、木を植えて花壇を作ったり家庭菜園を整備している。管理者は、職員一人ひとりに自己目標を立てるようにすすめている。毎月、目標の評価のため職員と個人面談を実施し、達成状況を聞き取ったりアドバイスをしている。個人的な相談にのるなど、信頼関係を築いて、職員の育成に力を注いでいる。「その人らしさを大切に 住み慣れた地域で 安心と尊厳が守られるよう 支援します」をモットーに、法人内の他の事業所と合同で行事を開催したり設備を利用している。緊急時には常に母体法人と連携し、サービスの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けられるよう理念に盛り込んでいる。管理者と職員はともに意識の共有を図っている。	4年前に地域密着型サービスとしての理念へ見直しを行っている。玄関やスタッフルームに掲示し、職員間で確認し合っており、日ごろから実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学生との交流を続けている。また、夏祭りや敬老会、開所記念日に地域の方に参加していただいている。	小学生の見学を受け入れ、交流する機会を設けている。母体法人が主催する夏祭りや敬老会への参加やコミュニティセンターの美術展に作品を出品する等、地域との交流を大切にしている。地域の清掃活動への参加についても検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けた具体的な貢献はできていない。運営推進会議で地域の高齢者の暮らしに役立つことがないかを提案したり、参加者と話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所としての取り組み内容や懸案事項について報告、相談している。自己評価や外部評価の結果を報告し、参加者から卒直な意見をもらってサービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議では、活動状況や評価結果を報告し、意見交換を行っている。地域からの情報を得たり、認知症についての理解を深めてもらっている。	運営推進会議の協議内容を全職員で共有し、サービスの質の向上に活かされるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や実地指導、認定更新など機会あるごとに市担当者へ利用者の暮らしぶりや具体的な状況を伝え、連携を図っている。	市担当者へ運営推進会議の議事録を郵送したり電話で簡単な相談にのってもらっている。認定更新時や込み入った相談は直接に窓口を訪ね、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへの手引きをもとに、勉強会を実施している。拘束の禁止となる具体的な行為について理解を深めている。	身体拘束しないケアを実践している。安全性を優先し、玄関やウッドデッキへは職員が誘導しなければ出られないようになっている。	身体拘束の対象となるような具体的な行為について理解を深め、安全に配慮したうえで抑圧感のない暮らしを支援されたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通じて高齢者虐待防止に関する理解の浸透や遵守に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修を通じて理解を深め、必要と思われる利用者の支援に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書や利用契約書をできるだけいねいに説明している。ケアに関する取り組みや退居を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。契約改定をする場合は説明を行い納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時やケアプラン作成時、提出時等に意見や要望を伝えてもらえるよう、話しやすい雰囲気づくりに配慮している。出された意見や要望を運営に反映させている。	家族の来訪時や家族会、運営推進会議時に話し合って意見や要望を聞き、検討して運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングや職員の個別面談を定期的実施して、意見を聞くようにしている。日ごろの関わりの中で生まれる職員の気づきやアイデアを大切に運営に反映させている。	毎月、管理者は職員と個別面談やミーティングの時間をつくり、意見を聞く機会を設けている。出された意見はミーティングで検討したり法人の管理者会議で話し合って運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁に現場に来て、職員がいつでも相談できる環境にある。職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、事業所内研修を開催している。外部研修への参加は十分とはいえない。新人職員に対して、OJTの体制を整備している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本グループホーム協会徳島県支部に所属し、会が主催する勉強会や事例検討等を通じて他の事業所の職員から意見や経験を知る機会を設け、ケアに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人が困っていることや不安に思っていること、希望していることを十分聞き出せるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望を理解し、これまでの経緯について十分話を聞くよう努めている。初期の関わりを通じて信頼関係が築けるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いや要望を知り、必要としている支援を見極めて利用者の立場に立った柔軟な対応を心がけている。家族と職員間で相談を繰り返し、信頼関係を築けるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を介護されるだけの受身の立場におかず、人生の先輩として学ばせてもらう場面をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に利用者の体調や日ごろの生活の様子をこまめに報告し、情報の共有を図っている。利用者とともに支えていくために協力関係を築くよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や知人等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。電話をかけた手紙を出すことを支援し、関係が継続できるよう努めている。	家族や知人へ電話をかけたり葉書を出すなど、本人の希望にそって支援している。また、行きつけの美容院やお墓参り、法事等の外出は家族と相談しながら、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性や情報を全職員が共有できるようにしている。また、トラブルが生じないよう、職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、支援状況や習慣、好みなどの情報を提供して相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく暮らし続けることができるように、日ごろの関わりの中で、一人ひとりの利用者の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討し、家族の意見も取り入れている。	入居時、担当者を決めている。独自のアセスメントシートを利用して、利用者がその人らしい暮らしを継続できるよう家族から情報を得て、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりのこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、家族構成、家族歴、既往歴、入居に至るまでの経緯などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や生活のリズムを把握し、心身状態やできること、わかる力を総合的に理解するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から日ごろの関わりの中で、意向や意見を聞き、アセスメントやケアプランに反映させている。サービス担当者会議で職員の意見を聞いてケアプラン作成の参考にしている。	本人や家族、関係者の意向や職員の気づき等を反映させた介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い、状態変化時には随時見直して常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、夜勤を通じて24時間利用者の状態やケアの実践を個別記録に記録している。職員の気づきや利用者の状態変化は、ケアプランやモニタリングの評価等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況、その時々々の要望に応じてリハビリやマッサージ、外泊、外出等に柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加してもらい、支援に関する情報を交換するなど協力関係を築いている。警察署や消防署、民生委員と連携を図り、協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、これまでのかかりつけ医の受診状況を聞き、本人や家族の希望にそった医療機関で受診できるよう支援している。	協力医療機関の受診は職員が付きそっている。本人や家族が希望するかかりつけ医での受診は、基本的には家族が付きそうことになっているが、状況に応じて職員が送迎や付きそいを行って適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日ごろの関わりの中で注意深く観察し、情報や気づきを看護職に伝え、利用者が適切な医療や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、入院先の医療機関へお見舞いに行き病状の把握に努めている。病院関係者と情報交換を行ったり相談に乗ってもらえるように関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階から家族に説明して、事業所としての方針や具体的な支援を示している。重度化した場合は対応マニュアルにそって支援している。	入居時、重度化した場合や終末期のあり方について説明している。状態変化時は、関係者間で随時話し合って情報を共有し、チームで対応できるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で急変時の対応について定期的に勉強会や訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設事業所と合同で防災訓練を実施している。また、地域の自主防災会や消防署と共催で半年に1回、地域の方の協力のもと訓練に参加している。	年2回、併設事業所と合同で防災訓練を実施している。また、地域の自主防災会や消防署主催の各種訓練にも参加し、地域との協力関係を築いている。法人全体で備蓄物も整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法を遵守し、利用者一人ひとりのプライドやプライバシーを損ねないよう言葉かけや対応に配慮している。	日ごろからプライドやプライバシーを損ねないよう配慮している。特に排泄介助時はさりげないケアを心がけている。居室は、一部がガラス張りになっているが、利用者や家族の希望に応じてフィルムを貼る等工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案して、利用者が自己決定できる場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者主体の運営を心がけている。その日の本人の心身状況を尊重しながら、その人らしさを大切に支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の生活習慣にそった支援をしている。外出時や誕生日等は一緒に洋服を選んだり、化粧をしておしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながら献立を立てている。調理や盛り付け、片付け等を利用者と一緒に行い、職員と利用者が同じテーブルで食事をして、家庭的な雰囲気づくりを大切にしている。	利用者の希望を聞き献立を立てている。野菜の皮むきや盛り付け、下膳などできることを一緒に行い、同じテーブルで食事をしている。また、食べやすい形態や食材の変更、食前に口腔体操を行い、食事が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設事業所の管理栄養士に献立の内容をチェックしてもらっている。便秘傾向のある利用者等には一人ひとりの好みに合わせてスポーツ飲料等を利用してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には声かけや見守りをしている。利用者の状態に合わせて、毎食後、誘導や準備、一部介助を行って口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄できるよう支援している。チェック表を活用し、利用者一人ひとりの力、排泄パターン、習慣を把握し、気持ちよく排泄できるよう支援している。	現在、オムツ使用者はいない。紙パンツの使用者には、チェック表を活用して排泄パターンや習慣を把握し、タイミングを見計らって誘導している。夜間も気持ちよくトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ラジオ体操とウォーキング、十分な水分補給を徹底し、便秘対策に取り組んでいる。野菜や繊維質の多い食材を利用し、便秘予防に向けて工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する曜日や時間帯は、概ね決まっているが、利用者の状況によって柔軟に対応している。一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。	ユニットごとに交互になるよう週3回、入浴曜日を決めている。利用者のその日の希望や状況に応じて順番や時間帯を考慮している。入浴剤を使用するなど、入浴を楽しめるよう工夫している。ユニットを移動しての入浴も可能になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な睡眠が得られるよう配慮している。スムーズに就寝できるよう、夕方から穏やかにゆったりとした時間を過ごせるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者一人ひとりが現在、処方されている薬の名前や作用、副作用、服用回数などを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のこれまでの経験や有する力を発揮できるよう、日ごろの生活の中で役割を担ってもらい張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出ることにより気分転換やストレスの発散を図っていただいている。園庭で過ごしたり、近所への散歩、買い物、喫茶店等、短時間でも外出する機会をつくるように努めている。	ウッドデッキでの外気浴や菜園の手入れ、散歩、買い物、美術展の鑑賞、法人の行事参加等、希望に応じて外出を支援している。年2回程度、花見や遠足を計画し、外出の機会を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内では、家族の協力を得て少額のお金を持っている方もいる。外出時、お金を自分で払っていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話をかける手伝いをしたり、手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、できるだけ利用者にとって居心地のいい空間になるよう配慮している。廊下には利用者とともに作成した掲示物を展示して、生活感や季節感のある空間になるよう工夫している。	共用空間は採光がよく、利用者の思い出の写真や趣味の作品、花が飾られ、明るい空間になっている。幅の広い廊下には、ゆったりとくつろげるようソファを置き、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や食堂にソファを配置し、気の合う利用者同士が談笑できるようにしている。冬には食堂にコタツを置いて利用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家具が備え付けられているが、本人と家族の希望を取り入れて好みの品を飾り、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	各居室に洗面台が備え付けられ、整容時のプライバシーが確保されている。テレビやマッサージ器、鉢植えの花等、利用者の好みの品を持ち込み、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう配置などを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化に応じて介護シューズを使用してもらい安全で自立した生活が送れるよう支援している。居室の場所がわかりやすいように離れていても見える位置に名前を掲示している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けられるよう理念に盛り込んでいる。管理者と職員はともに意識の共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学生との交流を続けている。また、夏祭りや敬老会、開所記念日に地域の方に参加していただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けて具体的な貢献はできていない。運営推進会議では地域の高齢者の暮らしに役立つことがないかを提案したり、参加者と話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所としての取り組み内容や懸案事項について報告、相談している。自己評価や外部評価の結果を報告し、参加者から卒直な意見をもらってサービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や実地指導、認定更新など機会あるごとに市担当者へ利用者の暮らしぶりや具体的な状況を伝え、連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへの手引きをもとに、勉強会を実施している。拘束の禁止となる具体的な行為について理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃さざれることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通じて高齢者虐待防止に関する理解の浸透や遵守に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修を通じて理解を深め、必要と思われる利用者の支援に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書や利用契約書をできるだけ丁寧に説明している。ケアに関する取り組みや退居を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。契約改定をする場合は説明を行い納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時やケアプラン作成時、提出時等に意見や要望を伝えてもらえるよう、話しやすい雰囲気づくりに配慮している。出された意見や要望を運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングや職員の個別面談を定期的の実施して、意見を聞くようにしている。日ごろの関わりの中で生まれる職員の気づきやアイデアを大切に運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁に現場に来て、職員がいつでも相談できる環境にある。職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、事業所内研修を開催している。外部研修への参加は十分とはいえない。新人職員に対して、OJTの体制を整備している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会徳島県支部に所属し、会が主催する勉強会や事例検討等を通じて他の事業所の職員から意見や経験を知る機会を設け、ケアに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人が困っていることや不安に思っていること、希望していることを十分聞き出せるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望を理解し、これまでの経緯について十分話を聞くよう努めている。初期の関わりを通じて信頼関係が築けるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いや要望を知り、必要としている支援を見極めて利用者の立場に立った柔軟な対応を心がけている。家族と職員間で相談を繰り返し、信頼関係を築けるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を介護されるだけの受身の立場におかず、人生の先輩として学ばせてもらう場面をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に、利用者の体調や日ごろの生活の様子をこまめに報告し、情報の共有を図っている。利用者とともに支えていくために協力関係を築くよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や知人等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。電話をかけたたり手紙を出すことを支援し、関係が継続できるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性や情報を全職員が共有できるようにしている。また、トラブルが生じないよう、職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、支援状況や習慣、好みなどの情報を提供して相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく暮らし続けることができるように、日ごろの関わりの中で、一人ひとりの利用者の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討し、家族の意見も取り入れている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりのこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、家族構成、家族歴、既往歴、入居に至るまでの経緯などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や生活のリズムを把握し、心身状態やできること、わかる力を総合的に理解するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から日ごろの関わりの中で、意向や意見を聞き、アセスメントやケアプランに反映させている。サービス担当者会議で職員の意見を聞いてケアプラン作成の参考にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、夜勤を通じて24時間利用者の状態やケアの実践を個別記録に記録している。職員の気づきや利用者の状態変化は、ケアプランやモニタリングの評価等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況、その時々必要に応じてリハビリやマッサージ、外泊、外出等に柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加してもらい、支援に関する情報を交換するなど協力関係を築いている。警察署や消防署、民生委員と連携を図り、協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、これまでのかかりつけ医の受診状況を聞き、本人や家族の希望にそった医療機関で受診できるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日ごろの関わりの中で注意深く観察し、情報や気づきを看護職に伝え、利用者が適切な医療や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、入院先の医療機関へお見舞いに行き病状の把握に努めている。病院関係者と情報交換を行ったり相談に乗ってもらえるように関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階から家族に説明して、事業所としての方針や具体的な支援を示している。重度化した場合は対応マニュアルにそって支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で急変時の対応について定期的に勉強会や訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設事業所と合同で防災訓練を実施している。また、地域の自主防災会や消防署と共催で半年に1回、地域の方の協力のもと訓練に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法を遵守し、利用者一人ひとりのプライドやプライバシーを損ねないよう言葉かけや対応に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案して、利用者が自己決定できる場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者主体の運営を心がけている。その日の本人の心身状況を尊重しながら、その人らしさを大切に支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の生活習慣にそった支援をしている。外出時や誕生日等は一緒に洋服を選んだり、化粧をしておしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながら献立を立てている。調理や盛り付け、片付け等を利用者と一緒に行い、職員と利用者が同じテーブルで食事をして、家庭的な雰囲気づくりを大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設事業所の管理栄養士に献立の内容をチェックしてもらっている。便秘傾向のある利用者等には一人ひとりの好みに合わせてスポーツ飲料等を利用してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には声かけや見守りをしている。利用者の状態に合わせて、毎食後、誘導や準備、一部介助を行って口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄できるよう支援している。チェック表を活用し、利用者一人ひとりの力、排泄パターン、習慣を把握し、気持ちよく排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ラジオ体操とウォーキング、十分な水分補給を徹底し、便秘対策に取り組んでいる。野菜や繊維質の多い食材を利用し、便秘予防に向けて工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する曜日や時間帯は、概ね決まっているが、利用者の状況によって柔軟に対応している。一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な睡眠が得られるよう配慮している。スムーズに就寝できるよう、夕方から穏やかにゆったりした時間を過ごせるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者一人ひとりが現在、処方されている薬の名前や作用、副作用、服用回数などを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のこれまでの経験や有する力を発揮できるよう、日ごろの生活の中で役割を担ってもらい張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出ることにより気分転換やストレスの発散を図っていただいている。園庭で過ごしたり、近所への散歩、買い物、喫茶店等、短時間でも外出する機会をつくるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内では、家族の協力を得て少額のお金を持っている方もいる。外出時、お金を自分で払っていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話をかける手伝いをしたり、手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、できるだけ利用者にとって居心地のいい空間になるよう配慮している。廊下には利用者とともに作成した掲示物を展示して、生活感や季節感のある空間になるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や食堂にソファを配置し、気の合う利用者同士が談笑できるようにしている。冬には食堂にコタツを置いて利用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家具が備え付けられているが、本人と家族の希望を取り入れて好みの品を飾り、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化に応じて介護シューズを使用してもらい安全で自立した生活が送れるよう支援している。居室の場所がわかりやすいように離れていても見える位置に名前を掲示している。		